

★日本帝国主義の『棄民』政策

満州移民に関する基本資料の復刻！

弊社では、満州移民に関する立案計画から実施に至る文書類を中心に、「満州移民関係資料集成」全40巻を刊行した。今回は、これに続き、満州移住協会の機関誌を全号収集し、第II期として復刻刊行する。昭和11年4月創刊の『拓^{ひら}け満蒙』から、一回誌名の変更を経て、昭和20年1月までの間、移民の実態の変化、分村・分郷移民の具体的姿、農民の声などが満載されている。本誌は協会の「宣伝誌」ではあるが、満州移民の実態を示す基本的資料である。——不二出版

満州移民関係資料集成

第II期

拓^{ひら}け満蒙・新満洲・開拓

●全23巻・別冊1

●誌名の変遷（発行：満州移住協会）

拓^{ひら}け満蒙 昭和11年4月～昭和14年3月

新満洲 昭和14年4月～昭和15年12月

開拓 昭和16年1月～昭和20年1月

●推薦——安孫子麟・池田浩士・川村湊・君島和彦・田中学

●解説——岡部牧夫 ●解題——小林弘二 ●総目次——南里知樹

●概要——B5判・A5判 総11、864頁 上製本クロス装 全6回配本

●別冊——解説・解題・総目次（別冊のみ分売可。本体価格2,000円＋税）

●本体揃価格——全23巻・別冊1 15069,000円＋税

満州移民の意義と実態の変化を 伝える資料

安孫子 麟

・東日本国際大学経済学部教授

不二出版が前回刊行された『満州移民関係資料集成』には、満州移住協会の機関誌『拓け満蒙』が収録されていなかった。その少し残念な気持が、前回の拙稿推薦文に現われている。それが今回刊行されることになって利用者としては喜びにたえない。しかもいままでも、欠号分が見つからなかったもので、私も松川五郎（移住協会企画部長）の「南郷村を凝視して」の（一）をみることで、私にきず、心残りの論文を発表していた。今回はその欠号分も収録されている。完璧な収集に努力された不二出版の熱意に敬意を表したい。

『拓け満蒙』誌の発刊は一九三六年四月のことであるが、その夏に、広田内閣によって、満州移民が七大国第一四項目のなかに織り込まれ、拓務省が「二十九年百万戸送出計画」を樹てている。すなわち創刊されたばかりの同誌は、この大量送出の推進という役割を負わされていたのである。それも、ただ移民の推進という一般的・総論的な主張だけでなく、宮城県南郷村の経験を普遍化して、「分村移民方式」という具体策を積極的に提起していった。この間、それまで消極的といわれた農林省が、農山漁村経済更生計画と分村移民を結合させて、積極的な移民推進策に変わっていく過程も、同誌の記事から窺うことができる。さらに、国家総動員体制と移民政策の関連、入植開拓団の実状、転業者開拓団推進の経緯、第二次送出計画における移民理念の変化、大東亜共栄圏における大和民族の配分配置論等々、時局の進展に伴う満州移民の意義と実態の変化を、同誌から克明に知ることができる。

本誌が移民推進の「宣伝誌」という性格を持っていた（『解説』参照）ことを考えると、開拓政策のその時々段階に応じた具体的な狙いが、誌上によく現われているといえよう。十三次に及ぶ移民を一括して考えるのではなく、個々の変化に対応して理解しようとすれば、これは不可欠、必見の資料である。

開拓民の生の姿と肉声を 伝える貴重な資料

池田 浩士

・京都大学教授・現代文明論

すでに復刻刊行されている『満州移民関係資料集成』第一期全四〇巻をはじめ、『満蒙開拓青少年義勇軍関係資料』、『満州移民拓務局原資料』などによって、満州農業移民の立案と実施のほぼ全貌を解明することが可能となった。とはいえ、これらはいくまでも、政策決定や施策の実行にたずさわった「官」の側の動きを示す資料である。国策に動員され、家族ぐるみで参加させられた農民たち自身や、これら農民たちと生活現場で接触した最末端の組織者たち、そして入植現地で日本人「開拓団」が出会う中国農民たちの、生の姿や肉声は、こうした官側の資料からはほとんど伝わってくるべくもない。

この欠落を埋めるうえで決定的に重要な文献が、雑誌『開拓』（およびその前身誌）である。もちろん、国策国体「満州移住協会」が発行母体であった以上、その紙面には「官」の側の思惑が色濃く反映されている。だが同時にまた、この雑誌からは、いわば原寸大に近い開拓民の姿が、移民先でのバラ色ならざる実体験や、送出母村の混乱と苦悩をも含めて、彷彿として浮かびあがってくるのだ。満州移民に素材をとった小説やルポルタージュ、各開拓団の現況報告など、農民たちの具体的な日常をうかがわせる記事が毎号の紙面の大きな部分を占め、さらには草の根の運動を意図して展開された「開拓分会」運動の情報、「開拓相談」欄、読者からの詩・俳句・短歌の投稿を掲載した「開拓文苑」などの連載も、農民の感情と意識を物語る貴重な記録である。このような「民」の側に焦点をあわせた史料としては、他にはわずかに、『文藝春秋』の臨時増刊としてしばしば満州移民を特集した『現地報告』があるにすぎない。

国家による侵略を根底において支えた日本民衆の実像を明らかにするうえで、満州移民は避けることのできない歴史的テーマである。その満州移民を等身大でとらえるための最大の手がかりが、雑誌『開拓』なのだ。

●内容見本

『拓け満蒙』臨時増刊号（昭和13年11月）表紙



国策 満洲移民の知識

拓け満蒙臨時増刊

国策移民の本心を

「宣伝雑誌」から読みとる

川村 湊

●法政大学第一教養部教授

満州移住協会が刊行した満州開拓叢書に『開拓文苑』という文庫判の本がある。満州に開拓義勇軍として渡った若者、開拓団として渡った開拓士たちが創作した短歌、俳句、詩、新民謡などを編集したものだ。これらは満州移住協会が出していた『拓け満蒙』『新満洲』『開拓』という広報誌に投稿されたものを集めたものである。満州開拓への意気込みやその生活ぶり、あるいは「日本男児」の気概などを歌ったものが多く、もとより「満州移住」を宣伝する公的機関の広報雑誌に、満州移住や開拓に対して消極的であったり、否定的である内容のものが載るはずもなかった。しかし、見知らぬ土地へ渡り、厳しい大陸性の気候や自然環境、異民族に取り囲まれた異郷での生活に、彼らが心細さや気後れを全く感じなかったといえは嘘になるだろう。とりわけ、十代の少年を開拓義勇軍兵士として送り出した「内地」の父母たちは「御国の為」というスローガンとは別に、子の親として当然心を痛めたはずだ。

渡満せんと決意を言へば父上の煙管もつ手のふるへはげしき
母人よあだに思ふな御身の子民族の先駆広野と闘ふ

煙管を持つ父の手のふるえも、あだなる母の思いも、けなげで純真な「吾が子」の身の上を案じる当たり前の「親心」であるだろう。勇ましい開拓の決意や大陸雄飛の志を歌いながら、少年たちもまたそうした親の心を敏感に感じ取っていたのである。それでいて、彼らはなぜ若い身空で「国策」に殉じようとしたのだろうか。

大陸に鍛へしからだ大君に徴しだされし今日はよき日ぞ
さつくりと打ち込む鐵に丈夫の命をこめて国拓くかな

統計や論文や公式的なスローガンから見えてこないものが、雑誌の埋め草のような記事から見えてくることがある。この満蒙開拓の宣伝雑誌の復刻版の意義はそんなところにもある。

満州移民史研究のさらなる

進展のために

君島

和彦

●東京学芸大学教授

近年、「従軍慰安婦」問題や朝鮮人・中国人強制連行、南京大虐殺事件などが注目されているのに比べて、満州農業移民は、一見忘れられたように見えるが、中国残留孤児問題として時々われわれの眼前に現れる。日本の敗戦後すでに五〇年を越え、両親・肉親の発見は困難になっている。一般の関心も高いとは言えないようである。

当時、多くの日本人が、日本での生活から見れば広大な土地を「満州」に「買って」移民した。満州拓殖公社(満拓)が長期低金利で売ってくれた土地である。そこには既耕地もあったが、以前の土地所有者と思われる中国人とも仲良く生活できた。なのに、日本が敗戦したとたんに、中国人は土地を返せと襲撃してきた。なぜだ!! 引き上げの記録にはこんな話がたくさん出てくる。

これらの問題を考えるには日本国内での満州移民の募集や送出過程、満州での土地買収や入植地の選定、現地までの入植方法、家屋の準備や中国人との関係調整など、どんな機関が担当したのか、調べたくなるテーマがたくさんある。すでに二〇年も前、満州移民史研究会で満州農業移民関係機関を調べた時、一番やり残したと思っている部分がある。日本での移民関係機関である「満州移住協会」であった。資料が見つからなかったこともある。移住協会の仕事は十分に理解できなかったこともある。宣伝機関にしては大きすぎるし、移民募集の直接的機関でもない。実体がなかなか把握できなかった。今回刊行される機関誌も十分に見られなかった。そんなわけで、満州移民関係機関のなかで満州移住協会の研究は不可欠であるにもかかわらず、残された課題になっていると思う。今回の資料の刊行が重要な研究分野の資料の欠落を補ってくれることは明らかである。満州移民史の研究のさらなる発展のために、今回の刊行に期待するものである。

国策満洲移民の知識

拓け満蒙臨時増刊號 目次

表紙

帝都訪問の満蒙開拓青少年義勇軍
ふるさとへ便り——開拓の喜び(案安)——大和魂の鍛錬(内原)

口絵

大陸目指して——開拓訓練地訓練所の生活——天高く羊も肥る(龍爪)

終る五穀、肥る家畜——大陸に築く樂土——土に鍛へる大陸花嫁

人的資源と満洲移民……………満洲移住協会 佐藤貞次郎(二)

大陸長期建設と青年の動向……………大日本聯合青年團 栗原美能留(四)

産みなし産みなされたるもの……………満洲移住協会 松川 五郎(五)

神武天皇の御製と民族協和の眞精神……………協和會 田尻 隼人(七)

満洲移民と農村更生……………調査院 三浦 一雄(二)

新興満洲國の展望……………外務省 長谷川進一(八)

協和會の活動に就いて……………満洲國通信社 中村 登(四)

満洲國の成り立ち……………政経部長

満 人 を 語 る……………満鐵東京支社 三 輪 孝(三)

武裝移民から 國策となるまで……………矢島 庸人(六)

東宮君と僕(武裝移民……………加藤 完治(四)

青少年義勇軍とは何か……………満洲移住協會宣傳部(四)

皇國少年の大道場……………内原訓練所を視る(五)

現地訓練所の生活……………應募される方々の爲に——(募集要綱)——(五)

現地……………友よ！いざ行かん！上原吉雄……我等の夏を友よ！國吉計義(六)

報告……………嫩江に來た感想……萩野孝次……大陸の月見……菅谷壽三(六)

現地の少年たち……………義勇軍内原訓練所 江坂彌太郎(六)

満洲の保健視察を終へて……………日本醫大教授 齋藤 一男(九)

北滿の農業……………滿洲移住協會 楠 喬(七)

移住地の畜産……………拓務省 吉崎 千秋(八)

集團農業移民とは……………滿洲移住協會宣傳部(九)

一次から八次まで北滿移住地の現況……………(一〇)

「現地」 歡喜溢るゝ移住地の近頃……………第六次滿原 廣部永三郎(一〇)

種畜場と農事試験場……………東海村團長

希望せられる方々のために……………(一一)

集團移住地の經營に就いて……………滿洲拓殖 中村孝二郎(一二)

大陸の花嫁に望むもの……………公社理事 太田 文義(一二)

大陸の花嫁訓練……………滿洲移住協會幹部部(一三)

移住地渡満の心得……………義勇軍 幹部に就いて(一四)

集團移民……………國策滿洲移民の運営機關(一五)

移住地視察旅行の手引……………財團法人滿洲移住協會概要(一六)

財團法人滿洲移住協會概要……………(一七)

義勇軍青少年に激勵袋を送れ!!……………(一八)

附録……………滿洲集團農業移民入植圖 横一尺三寸

拓け満蒙・新満洲・開拓

全23巻・別冊1

●復刻版概要・配本一覧

●概要——B5判・A5判 総11、864頁 上製本クロス装 全6回配本

別冊 解説・解題・総目次

(誌名)

(復刻版巻数)

(原本巻号)

(原本発行年月)

(頁数)

『拓け満蒙』

『新満洲』

『開拓』

第1巻	第1巻1～8、臨増	昭和11年4月～昭和12年12月	336頁	第1回配本 '98年4月
第2巻	第2巻1～7	昭和13年1月～7月	444頁	
第3巻	第2巻8～12、臨増	昭和13年8月～12月	502頁	
第4巻	第3巻1～3	昭和14年1月～3月	360頁	第2回配本 '98年10月
第5巻	第3巻4～6	昭和14年4月～6月	632頁	
第6巻	第3巻7～9	昭和14年7月～9月	704頁	
第7巻	第3巻10～12	昭和14年10月～12月	712頁	
第8巻	第4巻1～3	昭和15年1月～3月	708頁	第3回配本 '99年4月
第9巻	第4巻4～6	昭和15年4月～6月	660頁	
第10巻	第4巻7～9	昭和15年7月～9月	660頁	
第11巻	第4巻10～12	昭和15年10月～12月	660頁	
第12巻	第5巻1～3	昭和16年1月～3月	504頁	
第13巻	第5巻4～6	昭和16年4月～6月	480頁	第4回配本 '99年10月
第14巻	第5巻7～9	昭和16年7月～9月	488頁	
第15巻	第5巻10～12	昭和16年10月～12月	460頁	
第16巻	第6巻1～3	昭和17年1月～3月	486頁	
第17巻	第6巻4～6	昭和17年4月～6月	444頁	第5回配本 2000年4月
第18巻	第6巻7～9	昭和17年7月～9月	444頁	
第19巻	第6巻10～12	昭和17年10月～12月	428頁	
第20巻	第7巻1～3	昭和18年1月～3月	414頁	
第21巻	第7巻4～6	昭和18年4月～6月	348頁	
第22巻	第7巻7～11	昭和18年7月～11・12月合併号	416頁	第6回配本 2000年10月
第23巻	第8巻1～7、第9巻1	昭和19年5月～昭和20年1月	540頁	

第1回配本 本体価格66,000円+税、第2～6回配本 各88,000円+税

全23巻・別冊1 本体価格506,000円+税

別冊

『拓け満蒙・新満洲・開拓』 解説・解題・総目次

○岡部牧夫・小林弘二・南里知樹
○B5判・並製本・70頁
○本体価格2,000円+税

本カタログ中の表示価格は、全て本体価格です。

不二出版

東京都文京区向丘一丁目二二
TEL 〇三三三一 二二四四三三
FAX 〇三三三一 二二四四六四
振替 〇〇一六〇二一九四〇八四